

だっこするよ

2024年 1月



社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園長 奥戸 昌子

子ども同士の相互作用から生まれる力 協働的学びの実現へ

初春のお慶びを申し上げます。元旦に発生した能登半島地震は、甚大な被害となりました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。一刻も早く平穏な生活に戻れますことをお祈り申し上げます。

改めて、自然災害と共に生きていくと痛感します。どう命を守るのか、日頃の備えが生死を分けるとも言われます。毎月の避難訓練を通して、大人の指示をしっかりと聞くこと、落ち着いて行動することなど身を守るための力を育てて参ります。

2024年、新年を迎えました。日頃より、保護者の皆様には、運営への温かいご理解とご協力を頂き心より感謝申し上げます。本年も職員一同、保育理念である「一人ひとりのこどもを大切に こどものための保育園へ」子どもも大人も共に一人一人の人権を尊重して保育を行います。子ども達にとって最善の環境を整えて、「やりたい!」「ワクワク大好き!」「つながりたい!」という人間本来の欲求や「自分らしく成長したいんだ!」という思いを私たち大人で両側面から支えていきましょう。嬉しいことや嬉しいことも乗り越えて成長していく当事者は、子ども達。今年もどんなドラマが生まれるか楽しみです。

4月よりスタートしました異年齢保育、保護者の

皆様には、ご不安も多々あったかと思えます。ご理解、ご協力に感謝申し上げます。初めは、緊張もありましたが、今では、同年齢保育以上に子ども同士のつながりや助け合いが豊かに生まれています。ぐんぐんさん（年中児）やどんどんさん（年長児）は、相手の思いを受け止めて、認める言葉を掛けながら「自分がどのようにふるまえば楽しくなるのか」仲間を思いやり、無意識に行動しています。誰かとの比較や競争ではなく共生へ…子ども達の公正で肯定的な眼差しを感じます。直ぐに困っている子へ寄り添う姿は、指示された訳でもなく、子ども自身が経験を積んで体得したこと「こうしたらいいよ」「こうなりたい僕の姿」へ自然と体が動くのだと思えます。

周りの状況を把握した社会性は、非認知能力です。また、手伝ってもらったら「有難う」と直ぐに言えるお子さんも素敵です。模倣したいモデルがあちこちにいることで、こども達の相互作用は広がり、その意義は、とても大きいです。そして、それぞれに幸福度や自己肯定感を高めています。

神戸大学大学院の北野幸子先生は、「協働的な学びは、一人ひとりの尊重があつての、共主体（Co-Agency）一人一人が主体性をもって学び合うことが大事だ。互惠性のある連携協働が、これからの教育に求められる学びだ。」引用：第66回全国保育研究大会資料より引用」と話されました。

現在は、孤立化するツールが増えて、他者と協同する機会も少なくなる一方です。人間の凸凹さ、個性を宝にして、共に主体者で生きていきたいですね。

そして、幼保小の取り組みに向けて、今年は、地域の小学校、幼稚園、こども園と連携が出来ればと考えています。

「・幼児教育は、前倒し教育、早期教育ではない。乳幼児期に適した教育・保育こそが小学校移行の教育の基盤となる。

・全国一律の教育ではない。各地域・施設が創意工夫しながら取り組む。

・この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現、一人ひとりの多様性を配慮」引用：幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きより

最善の保育とは？と共主体で話し合い、進めて参ります。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

写真は、楽しかったスクールコンサート 振り付き歌の様子